

太子町文化財資料 第28集

石 棺 の 調 査 I

太子町佐用岡字宮ノ本所在の石棺材の調査

1992年5月

太子町教育委員会

例言

- 1 本書は、兵庫県揖保郡太子町佐用岡字宮ノ本に所在した石棺材についての調査報告である。
- 2 調査は、太子町教育委員会が主体となり、同社会教育課三村修次、田村三千夫、海野浩幸が担当した。
- 3 本書の執筆・編集は、田村、海野が担当した。
- 4 本書の作成に当たっては、龍野市教育委員会、御津町教育委員会、戎建設株式会社、首藤聖、岩村千穂各氏の協力を得た。

目次

1. はじめに	1
2. 石棺材の概要	2
3. まとめ	3
付載 太子町内及周辺市町所在石棺地名表	4

挿図目次

第1図 石棺材位置図	1
第2図 石棺実測図1	5
第3図 石棺実測図2	6
第4図 石棺実測図3	7
第5図 石棺実測図4	8
第6図 石棺実測図5	9

写真目次

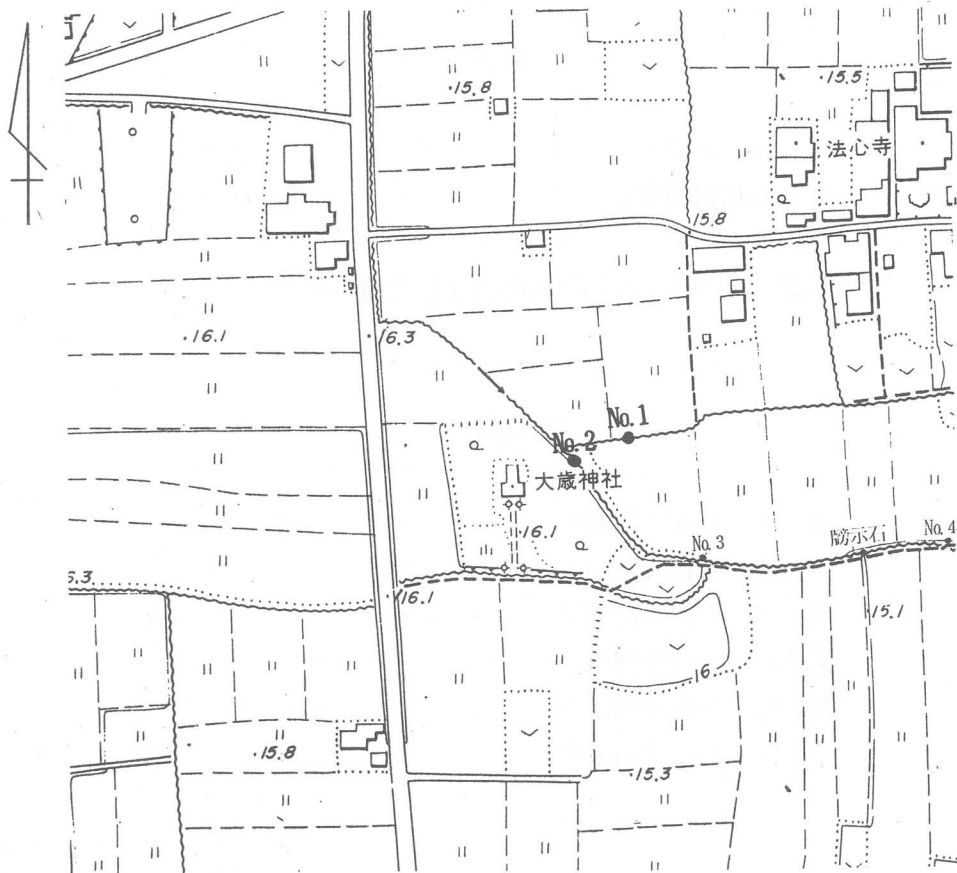
図板	—	1	佐用岡石棺材	1
		2	佐用岡石棺材	2

太子町佐用岡字宮ノ本所在の石棺材の調査

1. はじめに

平成4年2月から3月にかけて実施した埋蔵文化財分布調査で、太子町佐用岡字宮ノ本の大歳神社の北東部を北から南東に流れる農業用水路に架かる二か所の橋材に、石棺材が各1例ずつ転用されているのが確認された。

現在、この2例の石棺材は農業用水路改修工事により撤去されたため、太子町教育委員会において保管している。



第1図 石棺位置図 (S=1/2500)

2. 石棺材の概要

以下に今回確認された石棺材について紹介する。又、「太子町史第三巻」に掲載出来なかった3例も併せて紹介することにした。

(1) 組合式石棺底石 (実測図 1)

今回確認された物で、東側の橋材に転用されていたもの。

長辺68cm、短辺42cm、厚さ10cmを測る。一方の短辺側には2cmの浅い段が形成されている。長辺をのぞく四面は平滑に仕上げられており、小口石の可能性も考えられる。

(2) 組合式石棺底石 (実測図 2)

今回確認された物で、西側の橋材に転用されていたもの。

現存長辺78cm、現存短辺35cm、厚さ16cmを測る。一方の短辺側には2cmの浅い段が形成されている。加工されている面は平滑に仕上げられているが、反対面は未調整である。

(3) 組合式石棺底石 (実測図 3)

郷ノ谷5号墳の玄室内に所在するもの。長辺110cm、短辺35cm、厚さ15cmを測る。その規模から何枚か継ぎであった可能性が高い。両短辺には幅10cm、深さ3cmの溝が切られている。加工されている面は平滑に仕上げられているが、反対面は未調整である。現在は玄室内に埋戻され保存されている。

(4) 家形石棺蓋 (実測図 4)

郷ノ谷5号墳の玄室内より出土したもの。家形石棺蓋の隅部の断片である。稜線部分にはわずかな段が形成されている。裏面は平滑に仕上げられている。(3)の石棺材と同一個体の可能性が高い。現在、太子町教育委員会で保管している。

(5) 箱式石棺蓋 (実測図 5)

東保山3号墳の蓋石である。箱式石棺の蓋石であるが、不明瞭ながら家形に加工されており、特異例として取り上げた。長辺165cm、短辺83cm、厚さ15cmを測る。

内面には、幅10~15cm、深さ約3cmの溝が切られている。内法は、長さ約140cm、幅30cmを測る。内面には朱が付着していた。

3. まとめ

今回の2例を合せて太子町内で確認された石棺は、13例を数えることになった。今後調査が進めば、更に増加するものと考えられる。

現在太子町に所在する石棺の特色として、黒岡神社古墳、郷ノ谷5号墳の二例を除いて二次的に他に転用されていること、石材については、すべてが竜山石系の流紋岩質凝灰岩製であること、形態については、刳抜式の石棺身が一例しか存在しないこと、家形石棺の蓋石がいずれも扁平な印象を与えること、分布が斑鳩寺、黒岡神社、佐用岡大歳神社各周辺に集中していること、等が指摘される。

今回確認された場所の南東部に位置する、平方勝示石を挟む東西二か所の橋材にも石棺と思われる石材(佐用岡3・4)が確認されており、それらについては次の機会を待ちたい。

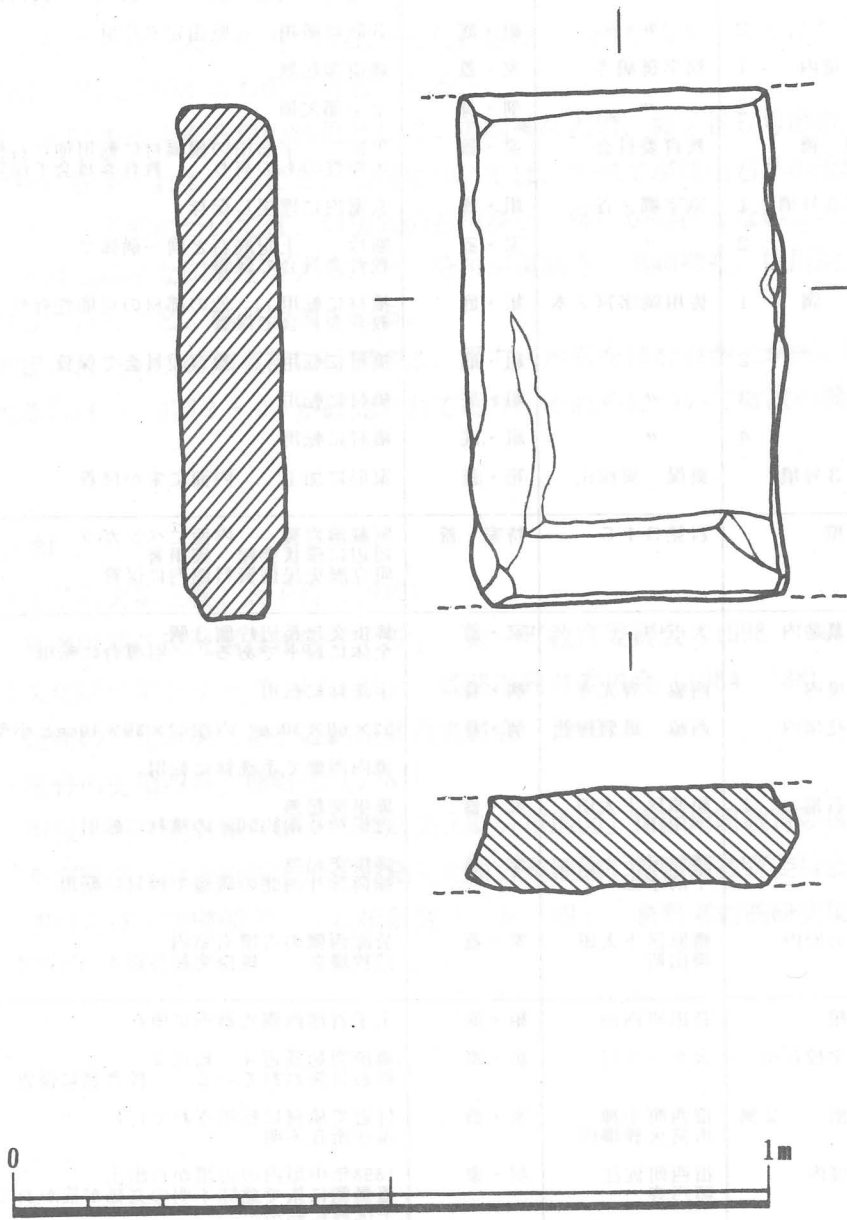
参考文献

1. 「太子町史第三巻」太子町(1989)
2. 「播磨国鶴荘現況調査報告Ⅱ Ⅲ」太子町教育委員会(1998 '90)
3. 「文化財見学シリーズ 12 21」姫路市教育委員会(1984 '88)
4. 「姫路の文化財第二巻」姫路市教育委員会(1990)
5. 「龍野市史第四巻」龍野市(1981)
6. 揖保川町文化財報告書Ⅴ「埋蔵文化財分布地図」揖保川町教育委員会(1988)
7. 新宮町文化財調査報告15「埋蔵文化財分布地図」新宮町教育委員会(1992)
8. 間壁忠彦・間壁葎子「石棺研究ノート 四」倉敷考古館研究集報第12号(1976)

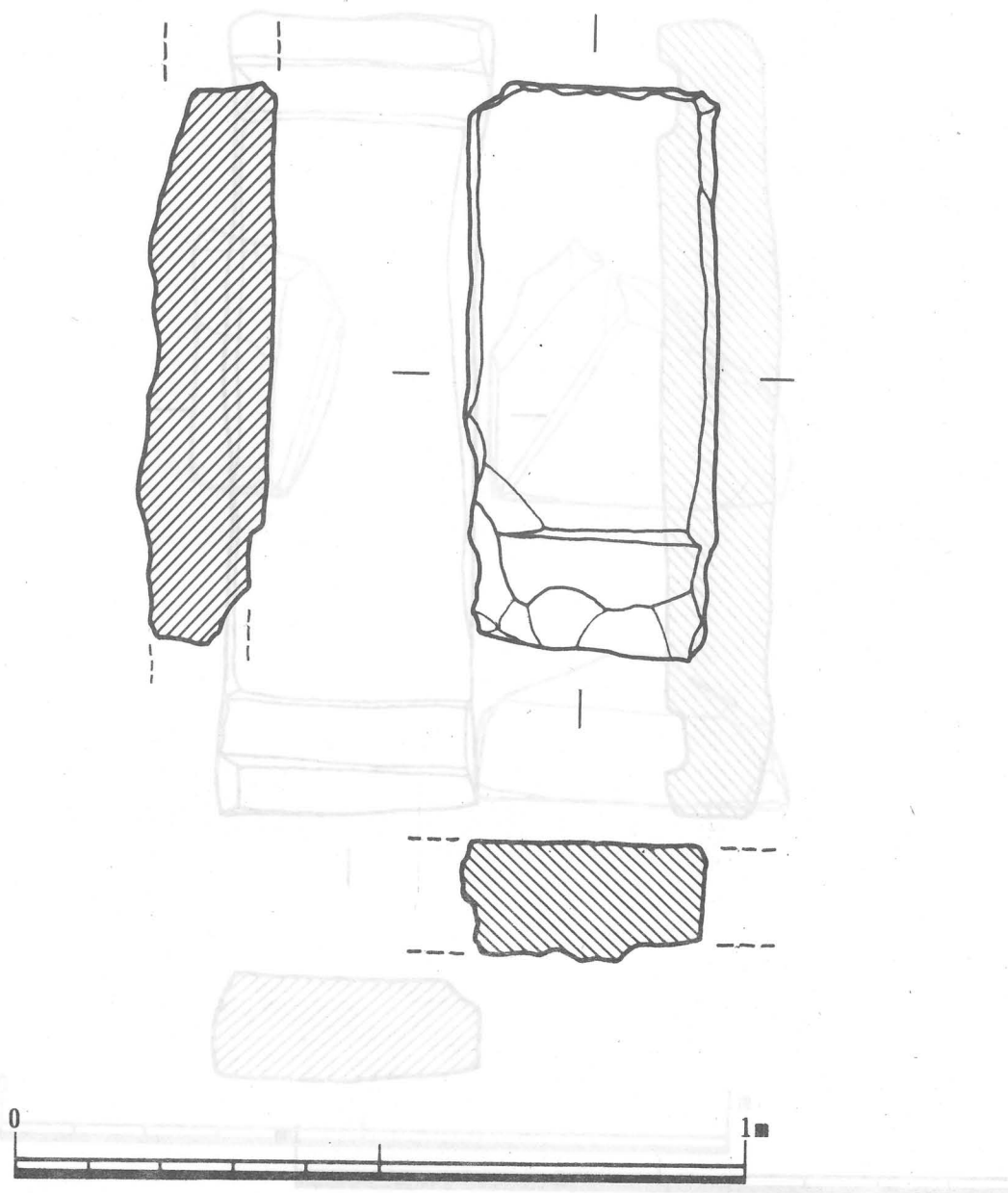
付載 太子町内及周辺市町所在石棺地名表

	名 称	所 在 地	種 別	備 考
太 子 町	黒岡神社古墳	太田字八幡	組・家	玄室内に遺存 小口石は失われている 県指定文化財
	黒岡神社境内 1	〃	家・蓋	長辺縄掛突起4個 杯状穴 県指定文化財
	〃 2	〃	組・底	3個に破損 県指定文化財
	斑鳩寺境内 1	鷗字斑鳩寺	家・蓋	縄掛突起無
	〃 2	〃	削・身	上半部欠損
	旧 硯 橋	教育委員会	家・蓋	半折 字前田の硯橋材に転用他に石棺材の 可能性のもの有り 教育委員会で保管
	郷ノ谷5号墳 1	原字郷ノ谷	組・底	玄室内に埋戻し保存
	〃 2	〃	家・蓋	断片 上記底石と同一個体? 教育委員会で保管
	佐 用 岡 1	佐用岡字宮ノ本	組・底	橋材に転用 他 の部材の可能性有り 教育委員会で保管
	〃 2	〃	組・底	橋材に転用 教育委員会で保管
〃 3	〃	組・底	橋材に転用	
〃 4	〃	組・底	橋材に転用	
東保山3号墳	東保 東保山	箱・蓋	家形に加工 内面に朱が付着	
御 津 町	朝臣石棺	岩見315	特家・蓋	阿蘇溶岩製 内面にベンガラ 短辺に環状突起 破損著 町立歴史民俗資料館内に保管
姫 路 市 西 部	太市中墓地内	太市中	家・蓋	縄掛突起長辺片側3個 全体に扁平である 引導台に転用
	専光寺境内	西脇 専光寺	削・身	手洗鉢に転用
	破磐神社境内	西脇 破磐神社	削・身	92×60×30cm 内法62×30×10cmと小型 境内西側で手洗鉢に転用
	下太田石棺 1	勝原区下太田 字川田	家・蓋	縄掛突起無 吉備神社南約50m の橋材に転用
	〃 2	勝原区下太田 字清水保	家・蓋	縄掛突起無 稻荷神社西北の農道で橋材に転用
丁古墳公園内	勝原区下太田 勝山町	家・蓋	公園西側の古墳玄室内 二枚継ぎ 縄掛突起長辺4 短辺2	
龍 野 市	内山石棺	誉田町内山	組・底	王子谷池西側竹藪内に所在
	竜野小学校石棺	大平一丁目	組・家	縄掛突起長辺4 短辺2 側石は失われている 校舎裏に保管
	小神石棺 2例	揖西町小神 市営火葬場内	家・蓋	付近で橋材に転用されていた 現在所在不明
	照円寺境内	揖西町佐江 照円寺	削・家	1898年中垣内の古墳から出土 蓋裏側に朱で意味不明の文様が描かれていた 手洗鉢に転用
	宝林寺境内	揖保町門前 宝林寺	組・底	石塔前の敷石に転用 杯状穴
揖 保 川 町	明覚寺境内 1	揖保川町半田	家・蓋	縄掛突起無? 半折?
	〃 2	揖保川町半田	組・底	上記蓋石と同一個体か?
	権現山27号墳	揖保川町市場 字梶山	組・家	断片 玄室内に遺存
新 宮 町	新宮八幡神社境内	新宮町字元町	家・蓋	半裁 縄掛突起長辺4 短辺2

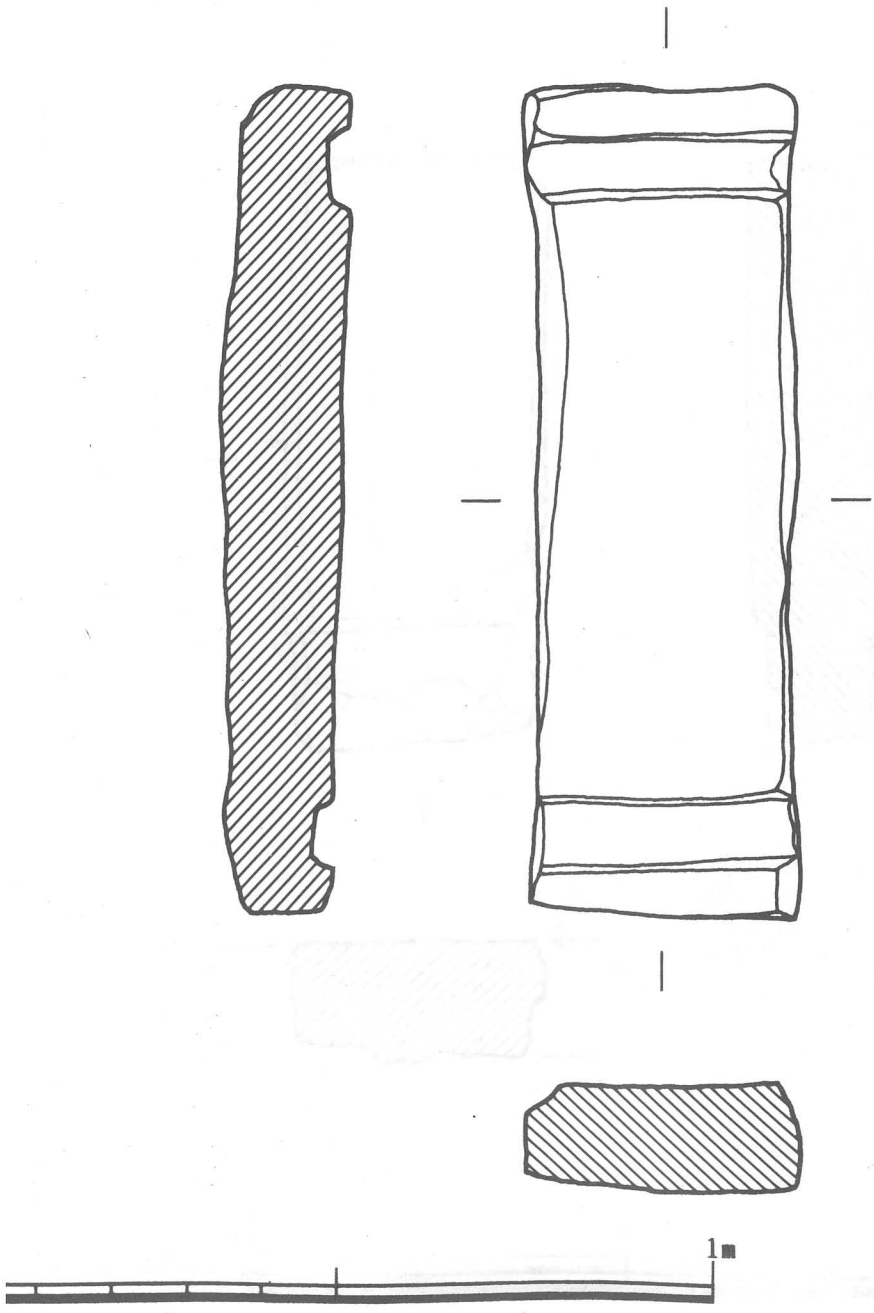
※ 組=組合式 削=剥板式 家=家形 特家=特殊家形 箱=箱式 蓋=蓋石 底=底石 身=棺身



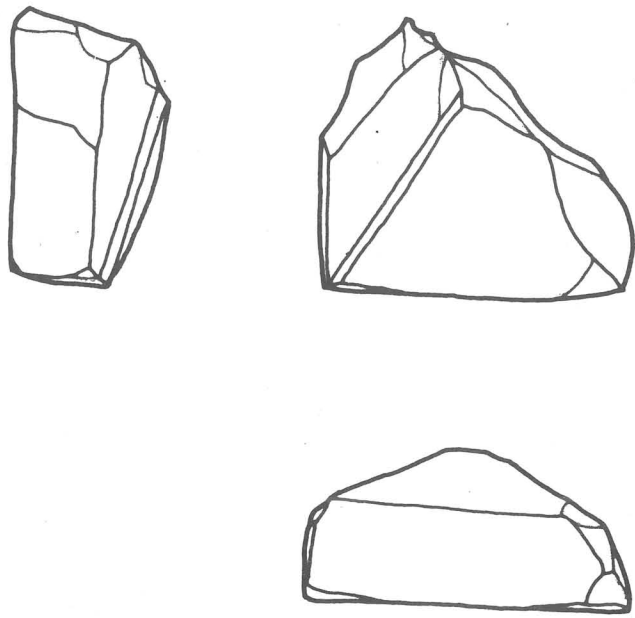
第2図 石棺実測図 1 (佐用岡 1)



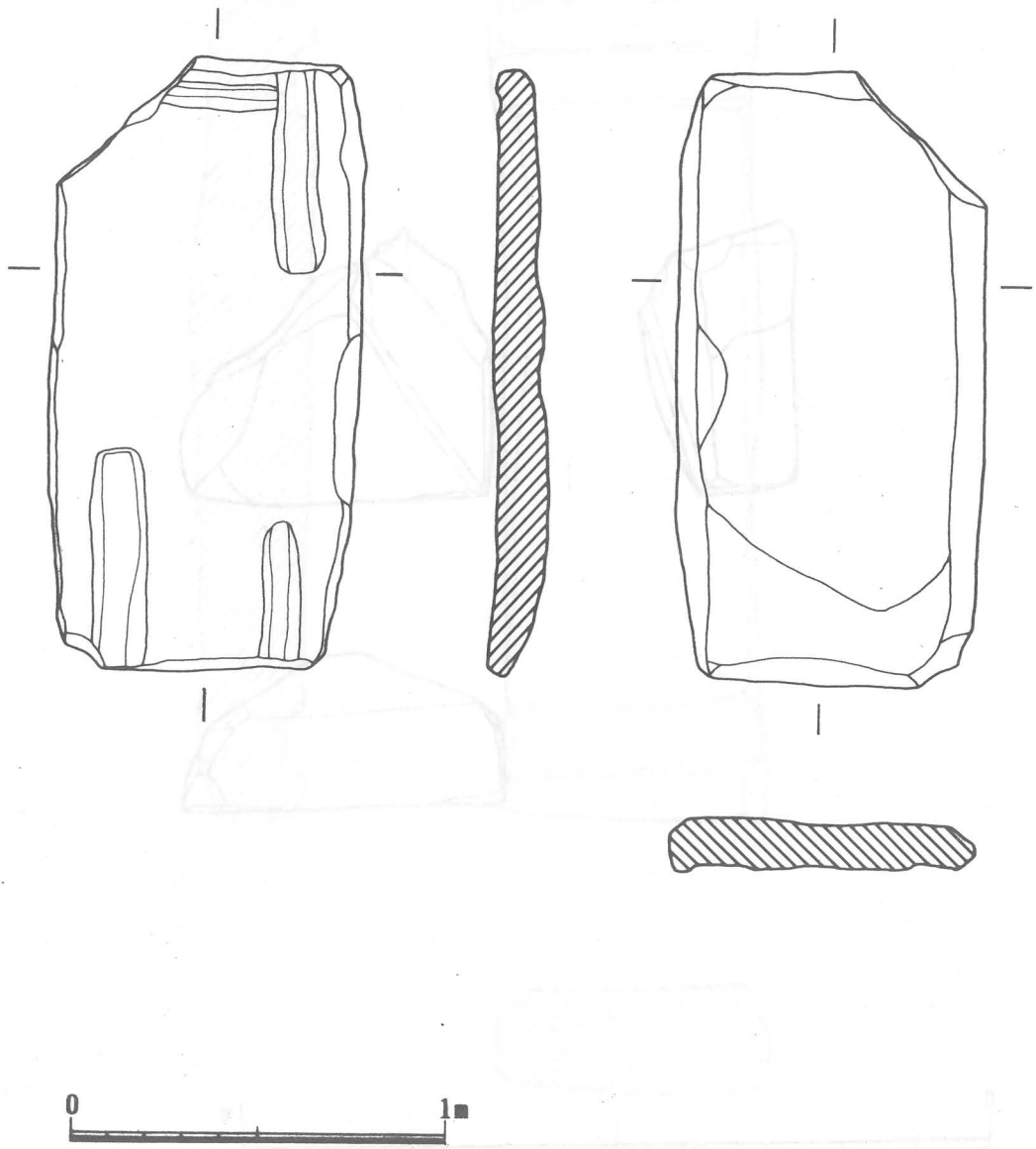
第3図 石棺実測図 2 (佐用岡 2)



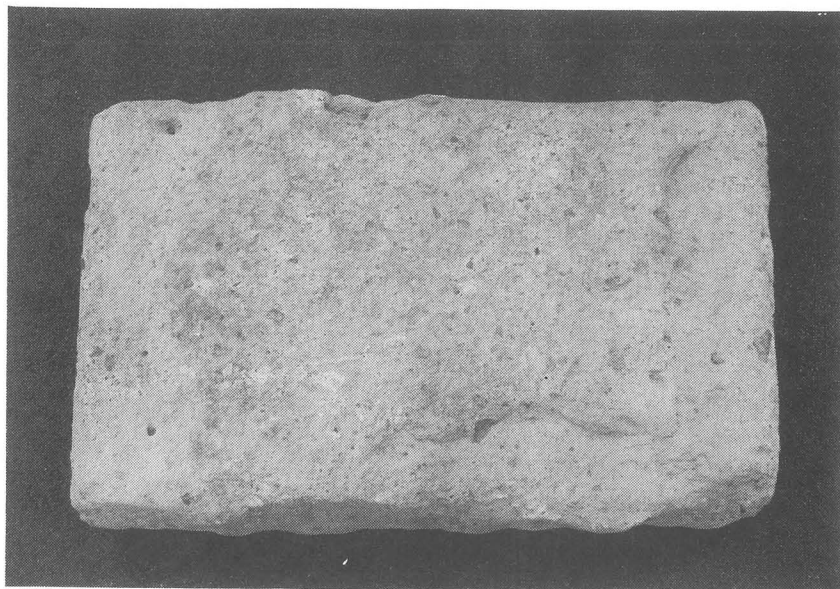
第4図 石棺実測図 3 (郷ノ谷5号墳 1)



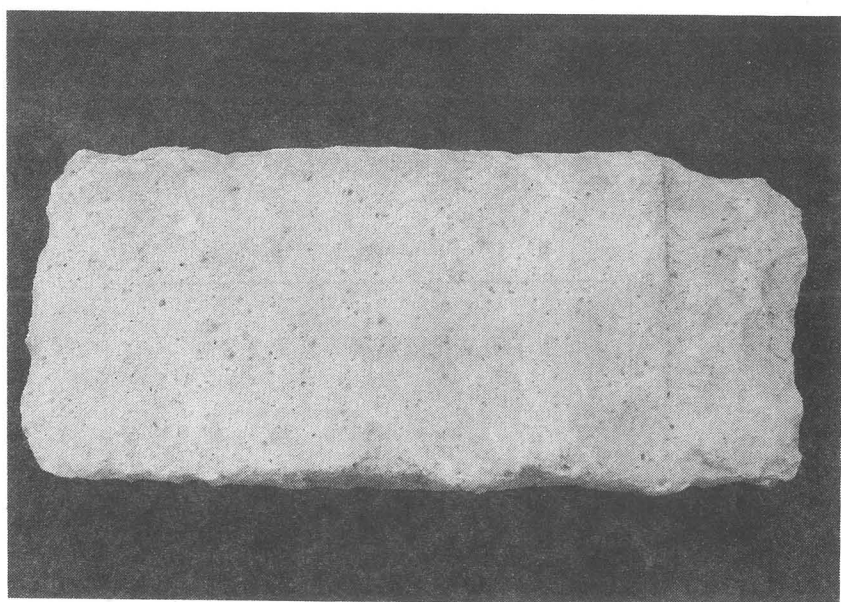
第5図 石棺実測図 4 (郷ノ谷5号墳 2)



第6図 石棺実測図 5 (東保山3号墳)



1 佐用岡石棺材 1



2 佐用岡石棺材 2

太子町文化財資料 第28号

石棺の調査 I

1992年5月1日

発行 太子町教育委員会

TEL 0792-77-1010

